

■コメント

1. 流行性角結膜炎

定点当たり報告数は1.88人と、例年同時期と比べて多い状態が続いています。

この疾患はアデノウイルスを原因とする急性の結膜炎で、その感染力は強く、家庭内や、職場などでの集団感染を引き起こすことがありますので、注意が必要です。

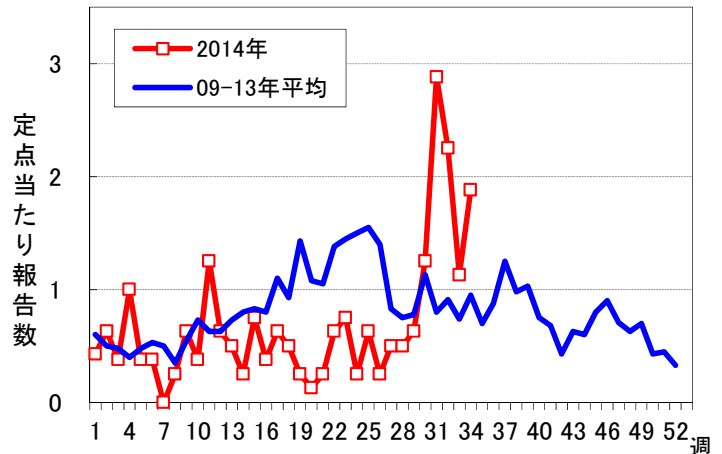
2. レジオネラ症

2件の報告があり、今年の累計は20件となりました。患者の性別は男性が18件(90%)、女性が2件(10%)と、男性が大半を占めています。(次頁参照)

3. 後天性免疫不全症候群

3件の報告があり、今年の累計は14件となりました。

流行性角結膜炎の流行状況



前週(第33週)は、お盆期間中の医療機関休診の影響があるため、第34週の疾患の増減の評価及び「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示は、前々週(第32週)との比較で行っています。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	増減	前週と比較しておおむね
小児科	インフルエンザ	-	-	0.26		小児科	流行性耳下腺炎	18	0.75	0.70		急増減	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
	咽頭結膜熱	11	0.46	0.50			RSウイルス感染症	12	0.50	0.22		増減	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.29	0.37		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05		微増減	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
	感染性胃腸炎	75	3.13	2.93			流行性角結膜炎	15	1.88	0.95		横ばい	ほとんど増減なし
	水痘	19	0.79	0.56		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.06			
	手足口病	8	0.33	1.63			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.25			
	伝染性紅斑	-	-	0.19			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.37			
	突発性発しん	20	0.83	0.64			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-			
	百日咳	-	-	0.16			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-			
	ヘルパンギーナ	34	1.42	1.26									

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	114	女性(30歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、男性(90歳代)・1人
4	A型肝炎	1	18	男性(40歳代)
4	レジオネラ症	2	20	男性(60歳代)・2人
5	後天性免疫不全症候群	3	14	男性(30歳代)・エイズ、男性(40歳代)・感染者、女性(40歳代)・エイズ

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタ ウイルス)	感染性 胃腸炎
報告数	広島市	第30週	1	8	29	84	18	12	-	13	-	86	20	4	-	10	-	1	-	-	-	-
		第31週	1	6	34	77	22	8	-	13	-	123	22	2	-	23	-	-	-	-	-	-
		第32週	-	7	28	76	16	9	-	9	-	57	20	15	-	18	-	1	1	-	-	-
		第33週	1	4	10	53	10	12	-	6	-	27	14	4	-	9	-	-	-	-	-	-
		第34週	-	11	7	75	19	8	-	20	-	34	18	12	-	15	-	1	1	-	-	-
定点当 たり	広島市	第30週	0.03	0.33	1.21	3.50	0.75	0.50	-	0.54	-	3.58	0.83	0.17	-	1.25	-	0.14	-	-	-	-
		第31週	0.03	0.25	1.42	3.21	0.92	0.33	-	0.54	-	5.13	0.92	0.08	-	2.88	-	-	-	-	-	-
		第32週	-	0.30	1.22	3.30	0.70	0.39	-	0.39	-	2.48	0.87	0.65	-	2.25	-	0.14	0.14	-	-	-
		第33週	0.03	0.17	0.42	2.21	0.42	0.50	-	0.25	-	1.13	0.58	0.17	-	1.13	-	-	-	-	-	-
		第34週	-	0.46	0.29	3.13	0.79	0.33	-	0.83	-	1.42	0.75	0.50	-	1.88	-	0.14	0.14	-	-	-
	全国	第32週	0.02	0.55	0.95	3.26	0.57	1.01	0.18	0.63	0.02	3.72	0.33	0.18	0.01	0.77	0.01	0.04	0.24	0.01	0.01	0.01
		第33週	0.02	0.40	0.62	2.43	0.49	0.77	0.10	0.46	0.01	2.43	0.27	0.20	0.01	0.48	0.01	0.04	0.25	0.01	-	-

■新たに判明した病原体検出状況

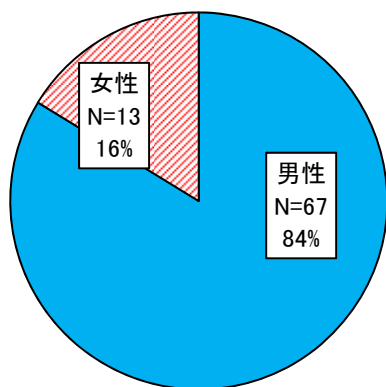
(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱(38.5) 髄膜炎	5	女	2014/07/05	咽頭拭い液 髄液 糞便	エコーウイルス30型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.4)	0	男	2014/06/29	糞便	ハレコウイルス3型
その他の疾患	発熱(38.2)	0	男	2014/07/02	糞便 鼻汁(拭い液)	ハレコウイルス3型

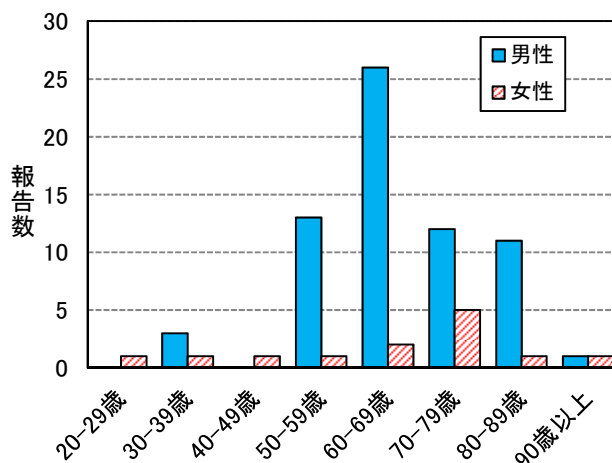
* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市におけるレジオネラ症の男女別・年齢階層別報告数(2006年～2014年第34週現在)

広島市におけるレジオネラ症報告数の男女比



広島市におけるレジオネラ症の男女別・年齢階層別報告数



レジオネラ症の広島市における報告数が、今年は第34週現在で20件となり、これまでの年間報告数の最高値(2008年の12件)をすでに大きく超えています。(最近の動向の詳細はホームページをご覧ください。URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/0000000000000/1408588349378/index.html>)

2006年から2014年第34週現在までの報告数の男女比は、男性が84%と大半を占めています。また、年齢階層別で見ると、男性は60歳代、女性は70歳代が最も報告数が多くなっています。

感染を予防するためには、不衛生な場所でのエアロゾルの吸入を避けるとともに、感染源となる可能性のある設備(循環式浴槽、ジャグジー、加湿器、冷却塔など)の衛生管理を適切に行い、レジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第34週(8月18日～8月24日)